

アップデート

外来診療棟再編工事が完了しました

より安全で機能的な外来診療を目指して

現在の市立市民病院の建物は、平成3年3月に改築されたものです。しかしながら、外来に來られる患者様の数が改築設計時の見込みを大きく上回ったことよって外来部分が手狭になったため、平成9年3月に外来棟の増築を行い、診察室の配置換えなどを行いました。

置室がふさがってしまいう状況も発生するようになりまし。そこで、昨年の12月より救急外来、内科、肝臓内科及び循環器科のBブロック、脳神経外科、心療内科・精神科及び皮膚科のCブロックの再編・改修工事を行ってきまし。

その後、平成9年4月に肝臓内科を、また平成15年4月には循環器科及び神経内科を新設したため、外来のBブロックとCブロックが再び手狭になりました。また、平成13年4月に救急病院の指定を受けて後、救急で来院される患者様の数が大きく増えたため、救急処

1. 会計窓口の隣に中央採血室を設けまし。 2. 循環器科・内科 肝臓内科の診察室の配置を変更して、中間仕切りなどもよりプライバシーに配慮したものを設置しまし。 3. 神経内科の診察室をCブロックからBブロックの一番南奥に移動しまし。

4. Cブロックの南端にありまし皮膚科を、脳神経外科と心療内科・精神科の間に移動しまし。 5. 移動した皮膚科診察室の跡に、外来化学療法室を設置しまし。 6. 外来化学療法室に、車椅子用のトイレを設置しまし。 7. 救急・時間外受付の場所を移動し、救急外来の診察室を2室から3室に増やしまし。 8. 正面玄関左にあった喫煙スペース跡に、患者さんからの相談室と、市民病院と



この記事は3面に続きます

写真は新設された中央採血室

病院ホームページ公開中!

明石市立市民病院ではホームページを運用しています。下記 URL までアクセスください。

<http://www.city.akashi.hyogo.jp/shiminhosp/>

診療案内

内科、肝臓内科、心療内科、精神科、神経内科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科

- ◎初めて受診される時
- 1. 新患受付にある新患受付番号発行機から、番号札をお取りください。
- 2. 診察申込書に必要事項をご記入ください。
- 3. 新患受付前で、順次番号をお呼びし、受付をします。
- 4. 新患受付後、カルテをお渡ししますので、それをもって、各診療科の受付窓口へ渡していただき、各診療科診察室前でお待ちください。
- 5. 診察室から、お名前をお呼びします。
- ◎受付時間
- 月～金：午前8時30分～午前11時30分
女性相談外来は第2・第4金曜日午後2時
(完全予約制・予約専用電話 9123356)
なお、健康診断は受付時間が異なりますのでご注意ください。
- ◎健診ほか(いずれも有料です)
- 1. 乳児健診(生後一・三・六・九・十二か月児が対象)
- 2. 予防接種(小児が対象、予約が必要です)
日本脳炎、麻しん、三種混合(百日せき、ジフテリア、破傷風)、二種混合(ジフテリア、破傷風)、風しん
毎週水曜日 午後1時～1時30分
- 3. 先天性股関節脱臼健診
診察 毎週水曜日 午後2時～午後3時

明石市立市民病院業務課
電話 912 2323

診療科リレー 紹介

消化器科

消化器科部長

吉田 俊一

す。現在、7名の医師と専任の看護師3名で検査や処置を行っており、日本消化器内視鏡学会の指導施設に認定されています。

吐血や大量の下血はできるだけ早急に原因を究明して治療をする必要があります。主な原因となる食道静脈瘤の破裂や胃・十二指腸潰瘍からの出血などには、緊急に内視鏡的止血処置を実施できる体制をとっています。

胆石や膵炎などの診断と治療にも、内視鏡は不可欠な手技となっています。重篤な炎症や腹痛を伴う総胆管結石や膵石を摘出し、胆管ステントを留置して胆汁の閉塞を解除することができま

す。年間約6千例の内視鏡検査例数は六千例に達しており、早期胃癌に対する内視鏡的胃粘膜切除術は40例、腺腫を含む早期大腸癌の大腸ポリープ・粘膜切除術は300例になりま

す。現在、7名の医師と専任の看護師3名で検査や処置を行っており、日本消化器内視鏡学会の指導施設に認定されています。

吐血や大量の下血はできるだけ早急に原因を究明して治療をする必要があります。主な原因となる食道静脈瘤の破裂や胃・十二指腸潰瘍からの出血などには、緊急に内視鏡的止血処置を実施できる体制をとっています。

胆石や膵炎などの診断と治療にも、内視鏡は不可欠な手技となっています。重篤な炎症や腹痛を伴う総胆管結石や膵石を摘出し、胆管ステントを留置して胆汁の閉塞を解除することができま

小児科

小児科部長

貫名 貞之

腎臓(火)、循環器疾患(水)、アレルギー(水)、神経(木)、糖尿(水)、糖尿病や低身長症(木)などの検査や治療にあたっては、胃・十二指腸潰瘍発症の主要な原因として注目されるヘリコバクター・ピロリ菌の除菌療法や慢性炎症性腸疾患に対する白血球除去療法等の専門的治療も行っています。

これからの、患者さんの安全性を十分に考慮しながら、新しい技術や知識を積極的に活用して消化器疾患の治療を行いたいと考えています。

当科では、内視鏡検査を活用して、病気の所在と性状を迅速に診断し、的確で適正な方針に従って治療を行うことを心がけています。

当科は明石市における小児科の中核病院として、急性の病気から慢性疾患、乳児健診、予防接種まで、子どもの病気について幅広く診療を行っています。

外来診療については、午前中に一般外来を行い、午後は乳児健診、予防接種の他、専門の外来をもうけています。専門外来では、小児血液・腫瘍(火)、

要とする場合も多く、その場合は院内学級(小学校、中学校)へ通学しながら治療を継続していただけます。

時間外診療は原則として二次救急医療として入院する患者さんの



折り紙の飾りつけ・紫陽花 (詳しくは4ページへ)

組んでいますが、設備的な制約もあり非常に小さい未熟児については県立こども病院をはじめとする専門施設にお願いしています。

乳児健診について、一ヶ月健診を中心に健診を行っていき、腰や膝や肩が痛く、日常生活が制限されたり、好きなことができなくなったりする人は対象に実施してあります。

卵アレルギーのある児に対する麻疹の予防接種など、注意を要する例にも対応させていただけます。

予防接種は、明石市の予防接種券をもって人々を対象に実施してあります。

開放するのが整形外科です。また、若い世代を中心にライフスタイルが変化してきています。これまでの生活の軸は仕事でしたが、地域や趣味を通しての交流が生活の重要な位置を占めるようになり、家族や自分を中心とした生活に変わってきています。テニスやスキー、スノーボードなどのスポーツをするために膝や腰の手術をする方も少なくありません。そのため、私たちが提供する重要な役割です。

整形外科はこのように運動に必要な臓器である骨、関節、筋肉や神経の修復や再生を促

ており、開業医の先生方や夜間休日急病センターと連携をとりながら、主に紹介患者の診療に当たっています。

新生児医療については、NCU(新生児ケアユニット)を開設し取り

大部分は、肺炎や胃腸炎といった急性の呼吸器系、消化器系の病気ですが、白血病、腎疾患などの慢性疾患に対する専門的な治療も行っています。慢性疾患では長期間の入院を必

し、運動器の機能回復のための研究や治療をする科です。

当科では外傷、慢性疾患、脊椎など、多様な整形外科疾患全般の治療に当たらせていただいております。年間500件前後の手術を行っています。骨折や靭帯損傷、変形性関節症など一般整形外科疾患の治療のみならず、脊椎難治症例の手術、大腿骨頭壊死に対する骨頭回転骨切り術、人工関節再(冬)置換術、股関節臼蓋形成不全に対する寛骨回転骨切り術など、特殊な手術も行っております。一方、最近注目されている小侵襲手術も積極的に取り入れており、膝・肩・股・足関節だけではなく脊椎の内視鏡による手術も手がけております。人を治療するには、もちろん知識や技術も大切ですが、心を癒すハートがもつことも大切で、私たちスタッフはどんなに忙しくても決して人としての真心、暖かい人情を忘れないように心がけております。

整形外科

整形外科部長

景山 直人

わが国は急速に高齢

看護部通信

サービス向上委員会

患者さまへのアンケート結果 看護職員の対応・マナーについて

当委員会は入院・外来の患者さまに気持ちよく、お過ごしいただけるよう看護サービスを検討する目的で設置され、平成15年度は看護スタッフの接遇・マナーの向上を中心に活動しました。

「トイレが汚い」「冷蔵庫の工夫」「一部業者の選んでよかった」
「朝食のメニュー」など貴重なご意見もありました。今回の調査結果を参考に、今後も当委員会の中心に、病院の改善がみられ、努力の成果を確認することができました。

今回は14名の方から「親切だ」「気持ちのいい病院だ」「このことを忘れず頑張ってください」など、励ましや感謝のお言葉を頂きました。

このたび入院患者の皆様を対象にアンケート調査を実施いたしました。療養中のごころ、快くご協力を頂き大変ありがとうございました。調査結果とお寄せ頂いた貴重なご意見を併せて報告いたします。

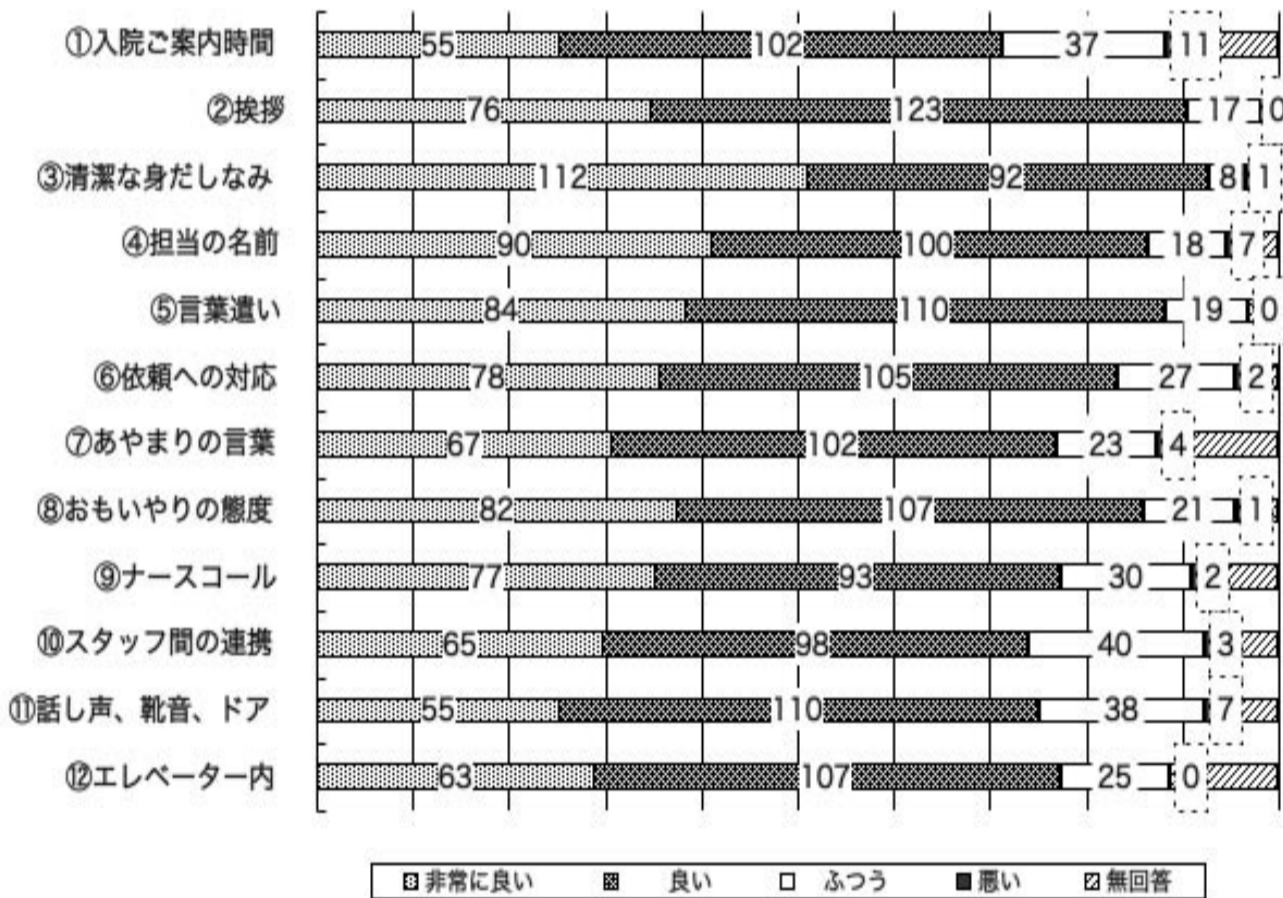
「大変良い」「良い」を合わせて80%以上を到達ラインに設定し、①～⑫の項目について検討しました。「③身だしなみは清潔ですか」「②気持ちの良い挨拶をしていますか」はともに90%以上の高い評価でした。次いで「⑤言葉づかいは丁寧

回答を頂いた患者さまの属性

①性別 男性 93名、女性 109名、無回答、18名

②年齢	<19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	>70歳	無回答
	2	13	20	25	29	57	58	16

下グラフ：看護職員の対応・マナーについて アンケート結果



外来再編工事について

(1面からつづく)

外来化学療法室とは？

最近の化学療法管理の進歩によって、以前は、入院していただいていた化学療法が、外来通院でも行えるようになってきました。そこで、これまで各診療科の外来診察室等で行っていた化学療法を、より落ち着いた環境で、より安全快適に患者さんに治療を受けていただくことを目的に、今回新たに設置したものです。

患者相談窓口を開設しました

市民病院では、これまでも、各部署で、患者さんからの苦情や相談の受け付けを行っていましたが、窓口を分かりやすくして、患者さんや家族の方などの声をお聞きするために、新たに相談室を設置しました。苦情や相談などは、業務課でお受けします。

地域医療連携室(仮称)を開設します

市民病院では、これまでも地域医療室において、市民病院と患者さんのかかりつけ医との間で、治療に必要な情報の交換などを行うことにより、連携をとりながら診療を行なってきましたが、さらに地域医療室の機能を強化するため、5月から地域医療連携室(仮称)を開設します。

地域医療連携室では、主に、かかりつけ医からの紹介を受けたり、市民病院から他の病院・医院などへの紹介窓口としての業務を行います。地域医療連携室を通じて紹介いただいた患者さんにつきましては、事前にカルテを作っておいたり、優先的に診療を行なうなど、待ち時間の短縮を図ります。

リハビリ 紹介

当科では、病气やけがで身体機能に障害をもたれた方が、運動機能を改善させ歩行能力や日常生活動作能力を回復していただくために、理学療法や作業療法を行います。

トレーニング、作業療法などを、適切な時期に適度に行うように計画し、運動機能の回復を図ります。毎日の状態の変化にはいつも神経をとがらせ、その都度その都度、運動やトレーニングの内容と量を調整していかなければなりません。

入院されている患者様には、運動機能の回復を図るとともに、トイレや洗面などの日常生活動作が一人でできるようになり、車椅子の練習や歩行練習などを、看護師と協力して行っていきます。

運動機能を低下させる病气やけがにはいろいろな種類があり、その種類によって、起こってくる症状が異なります。骨折や脱臼または関節の障害により起こる関節の拘縮（固くなり動かなくなること）、

脳や脊髄が損傷されて起こる麻痺（筋肉が固くなる麻痺）、神経・筋の病气により起こる麻痺（筋肉が柔らかく細くなる麻痺）、心臓・腎臓の機能低下から起こる体力低下など、多種多様です。

病气やけがになられた上に、運動機能が障害されると、患者様やそのご家族の精神的なショックはとても大きいものと思います。そこから立ち直ろうと努力される皆様のお役に少しでもなればとの

まず、原因となっている病气やけがの特徴に基づいて、運動機能障害の部位と種類、その程度を見られます。その上で、適切な治療体操や運動、温熱療法、

「癒しの森」では皆様からのご意見、作品を募集しています。お問い合わせ

入院されていた患者様や、外来で当科に通われていた患者様が、元氣になられたい事かなえられて、笑顔でいらつしやること、私たちにとってはなよりの励みです。

「癒しの森」では皆様からのご意見、作品を募集しています。お問い合わせ

お問い合わせ

広報委員会

折り紙と私

前田典代様

2面に作品の写真を掲載しています

思い返せば一昨年末、病室の窓から流れ行く雲を追ったり、木々の紅葉・落ち葉のなか飛ぶ鳥の姿に見とれながらの入院生活をしておりました。

その頃、この大きな窓を折り紙でクリスマス飾りつけをして、他の患者さんたちと楽しく過ごしました。それから1年、四季折々のつたない折り紙を折って、3階東病棟の入り口に飾らせ頂いております。指さえ動かせば四角の紙から色々なものが生まれて限りがありません。病に伏せた時、人生を考えるもよし、人の心の優しさに甘えるもよし、そんな一時を私は折り紙で気分転換したりして楽しみました。家で過ごせるというこの有り難さや、家族への感謝など病気になってしみじみ感じました。倒れた時のショック、手術のあと回復して立ち直った時など『生きる』ということがどんなに素晴らしいかを体験しました。

私の作った折り紙を見ていただいた方の心が少しでもおだやかに、そして元氣が出てくれればとても嬉しいです。私が元氣で続けていくためにも、皆様の参加そしてお知恵を拝借出来れば助かります。そして、このようなつまらぬ物でも大事に残そうと思つて下さる婦長さん達の心遣いが有難く、次は何を作ろうかという意欲を持たせて下さるのです。

ひろがりゆく輪の中で、みんなに励まされるいる私は幸せだと感謝しております。

院内情報局

この情報は5月1日現在のものです。詳細は総務課まで

健康明石 21 市民公開講座

・5月20日(木)

脳梗塞の治療ー閉塞性脳血管障害に対する外科的アプローチー：脳神経外科

排尿障害ーおしっこが近い、出にくい、困ったときはー：泌尿器科

・6月17日(木)

皮膚の感染症ーうつる病气とうつらない病气ー：皮膚科

白内障・緑内障ー中高年の気になる目の病气ー：眼科

・7月15日(木)

家庭介護についてー介護に必要な知識と実際ー：看護部

・8月19日(木)

画像検査ー最近の進歩ー

ー放射線検査でわかることー：放射線科

ー超音波検査でわかることー：臨床検査科

・9月16日(木)

心の病についてーストレスに打ち勝つためにー：心療内科

食生活から見た生活習慣病ーバランスよく食べましょうー：業務課

各日とも午後2時から、正面玄関右手の階段を上った2階講義室で開催します。

入場無料です。直接会場までお越しください。

広報誌について

明石市立市民病院広報誌は、年4回発行の季刊誌です。皆様のご意見を参考にさせていただきながら、皆様と病院の架け橋(ブリッジ)となるよう、地域の健康・福祉に貢献する広報誌に育てていきたいと思っています。広報誌についてのご意見・ご感想をぜひお寄せください。

編集後記

・風薫るよい季節となりました。

予定よりずいぶん遅れましたが発行第3号をお届けすることができました。4月には医師やスタッフの大異動があるため、異動を反映した形で広報誌やホームページを運用する必要があります。お待ちいただいた皆様には大変ご迷惑をおかけしました。今後とも広報誌をよろしく願います。

(遊歩者・編集長)